

# 育子屋NEWS

2024. 2. 1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## 高校野球の公式戦、 「0対91」の試合に学ぶ



かなり前の記事になりますが、高校野球の試合で0対91という大差の試合が取り上げられていました。

すごい試合やなあ・・・ここまで点差がつくのはちょっと可哀想・・・。

と感じながらも記事に目を通すと、そこにはまさしく**教育**がありました。

そして可哀想と感じた自分を恥じることとなりました。

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	R	H	E
英心	0	0	0	0	0						0	0	17
山商	8	3	1	4	1	1	X				91	62	0

## 選手はダメじゃないです

試合後、ツイッターでこう呟いたのは62被安打、17失策で91点を奪われて敗れた私立英心高校の豊田監督です。

「そりゃ、この結果は悔しいですよ。悔しくて、悔しくてたまらない。何人も泣きました。でも、光栄だなとも思いました。」

試合後のインタビューでこう語った監督、この大敗に光栄という表現を使うのには一体どういう意図があるのでしょうか・・・

2008年に現在の校名になった英心高校は、元々不登校の子供を多く受け入れる学校で、その中には休み時間にキャッチボールをする生徒もいました。そこに野球経験のある豊田監督が、週1回程度のクラブ活動でみんなが楽しめるようにと、2015年5月に野球部を創設しました。

部員は男子5人、マネージャー1人から始まった野球部は少しずつ増え始め、10名に達したので日本高等学校野球連盟（高野連）への登録申請が通り、対外試合を組めるようになりました。

バット1本、ボール10球、ヘルメットは相手から借りるというチーム状況で挑んだ最初の試合は0対26で敗戦。この時の投手は「打たれたくない」と嘆き続けました。

「この日を機に彼に『エースの自覚』が芽生えた気がします。他の部員も高校野球の厳しさを知り、負けん気が出て野球にのめり込んでいきました。」

と監督は振り返ります。

それから約1年半後にあたるこの試合で、0対91の大敗をします。点差だけ見ると創部当初から何も変わっていないように感じますが、決してそうではありませんでした。

4回の英心の守備、ピッチャー返しの打球が投手のお腹を直撃し、立ち上がれなくなりました。監督が「交代だな。」と告げると、投手は「最後まで投げさせて下さい！」と食い下がります。監督が折れて続投させると、相手チームの選手も立ち上がり、マウンドに再度立ったエースに向け拍手を送ったのです。

4回の守備を終えベンチに戻ったエースは

「投げさせてくれてありがとうございました！」

と監督に礼を述べました。実は彼は、中学時代まで不登校の生徒でした。

監督はこの試合を振り返り、こう述べます。

「今までは、ストライクが入らず四球が続く試合ばかりでした。すると、相手チームは20~30点も差がつくと、試合を終わらせようとバントして自らアウトになるんです。

でも今回の宇治山田商は県屈指の強豪ですが、フルメンバーで最後の最後まで攻撃の手を緩めませんでした。うちのピッチャーもストライクを入れられるようになりました。

これは『終わらせてもらっていた試合』と違い、勝負の中ではっきりとついた91点差だったと思っています。初めてチームとして認められたという感覚でした。」

こういった理由から『光栄』という表現が使われたのですね。この記事を読んで、対戦相手だった宇治山田商の監督や選手たちにも拍手を送りたい気持ちになりました。

豊田監督は最後に、

「不登校だった子が、ただ学校に来るようになるだけではダメだと思っています。私は野球を通じて心がしっかりと育ってほしい。自分の将来に前向きになり、人間性が形成されていって欲しいです。うちの高校の生徒は体力的にもちょっとひ弱なので、野球で受験勉強のための持久力や忍耐力もつくと考えています。」

と、話されたそうです。

試合では全く歯が立たず敗れてしまった英心高校ですが、選手たちはこの点差以上に人間的な大きな成長を遂げることができたのではないのでしょうか。

ちなみに、この大敗の翌日も誰一人練習を休まなかったとのことでした。

## クラブや勉強ってなぜするの？

クラブは何のためにするのか？当然、皆さん試合に勝つことを目標に日々練習しています。勝敗を気にしない勝負はしても意味がありません。

では負けたら意味がないのか？

それは先述の英心高校が教えてくれたように、0対91で負けた試合でも選手たちにとっては大きな意味があるのです。

チームや設備面の環境、個人の能力の問題など、どれだけ努力してもある程度「限界」があるのは否定できないと思います。オリンピック選手と同じ練習をしたからといって、みんな同じタイムを出せるわけではないですよ？

**しかしそんな中で自分なりに上達する方法を必死に考えたり、挫折や成功を経験することで人間の幅を広げられるのです。**

勉強も一緒だと思います。

例えば中学生が理科で習う「フレミングの法則」や国語で習う「五段活用」・「下一段活用」など、社会に出てからどれだけ必要性があるのでしょうか？恐らく、その分野の専門のお仕事でしか必要はないですよ。

ではなぜ社会で必ず必要ではないことも学ぶのか？それは「教科の勉強をする」ということを通して、社会に出てから困らないように、「インプット→アウトプット」の練習をしているのだと思います。

まだまだ教育業界は成績至上主義で少しでも良い成績、少しでも良い学校、という傾向があります。これは当然悪いことではありませんが、あくまで勉強というのは**人間性・人間力を育てるための手段**に過ぎないのだと思います。

**本来は勉強もスポーツ同様、失敗して、この方法だとダメだから次はどう勉強しようかと、試行錯誤して自分なりの学習法を見つけ、身につけ、実力にしていくものです。**

100人いたら100通りの学習方法があるのです。それを生徒と一緒に考え、アドバイスし、励ましながら、徐々に自分なりの学習法を見つけてもらうのです。

しかし多くの学習塾では「手段」である勉強を「目的」として、最小限の努力と時間で最大限の効果・結果が得られるようにと指導します。これだと、早く効果（良い成績）が出るかもしれませんが、一番伸ばしたい部分が伸びにくいのです。

今までは**認知能力**（知能や知識など数値化できるもの）、すなわち**テストの点数や偏差値、成績、学歴**が重要視された時代でした。

目まぐるしく変化を続ける現代では数値化できない**非認知能力**（意欲・協調性・粘り強さ・忍耐力・計画性など）が必要だと言われています。

上記のようなことは、最近専門家がよく口にするようになってきましたが、私たちは当初から言い続けています。

これからも目の前の勉強も大切にしつつ、10年、20年先を見越した指導をしていきますので、今後ともご理解とご協力をお願い致します。

とはいえ学生の間は認知能力も大切なので、認知能力も非認知能力もバランスよく伸ばせるよう頑張ってもらいます(^ ^)

# クラブや勉強ってなぜするの??

クラブは好きだからしている人が多いと思いますが、勉強ってなぜするのか  
わかりますか？今習っていることが社会で必要なわけじゃないのに・・・

## クラブや勉強は社会に出るための準備

クラブは当然勝つために頑張っている人が多いと思います。勉強も頑張  
るからにはテストでよい点数を取りたいですね。では試合で負けたり、  
テストの結果が悪かったら、やっている意味は無いのでしょうか？

決してそんなことはありません。

大事なものは試合に負けた時やテストの結果が悪かった時に、嘆くのでは  
なく「結果が良くなかった原因は何だろう？次はこうしてみよう」と次に  
向けて改善点を考え、行動に移すことなのです。

この繰り返しがあなただをどんどん成長させます。そしてこれができる人  
は社会に出てから活躍できる人になります。

社会に出てからは定期テストはありません。自ら改善点を考え、行動に  
移せる人が社会では100点満点の人材となります。目の前のテストの100  
点も大事ですが、ぜひ社会で100点を取れる人になってくださいね。



「奇跡が起きたわけじゃない。  
努力の積み重ねが幸せを作ったんだ。」

まつしたこうのすけ ばなそにつくぐるーぶ そうぎょうしゃ  
松下 幸之助 ～パナソニックグループの創業者～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。